

船橋市 農委だより

令和6年
(2024年)

1/1

第107号
年2回発行

発行 船橋市農業委員会
編集 農委だより編集委員会

〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号
TEL 047 (436) 2742~5
URL <https://www.city.funabashi.lg.jp> (船橋市役所)
e-mail nogyo@city.funabashi.lg.jp

FUNABASHISHI NOUIDAYORI



天候に左右されない施設園芸で、一年中、収量を得られる養液栽培を行っている西船の三須一^{みすかずたか}生さん。

大玉、中玉のトマトや、ミニトマトを10種類前後、完熟させ、直売所やスーパー、インターネット通販、移動販売車などを駆使して販売しています。

今後はイチゴ栽培にも取り組むという、積極的に挑戦していくスタイルは新たな世界を切り開いていきます。

詳しくは6ページ「がんばる！農家訪問」をご覧ください。



年頭のごあいさつ

船橋市農業委員会

会長
岡庭 一美



新年あけましておめでとうございます。

日頃より農業委員会活動にご理解、ご協力いただき、感謝を申し上げます。

さて、コロナ禍からの経済回復の兆しが見られる中で、ウクライナ情勢等の悪化による農業資材価格や人件費の高騰など、経営改善の見通しが立たない状況が続いており、さらに、生産現場においては、気象災害や病害虫等による収穫量の減少、品質の低下などにより、収入の減少が懸念される事態に陥っています。

また、農業者の減少・高齢化が加速する中であっては、認定農業者等の担い手だけではなく、経営規模の大小にかかわらず、意欲を持って農業に新規に参入する方々を地域内外から取り込むことも必要であり、今後においてはより多様な方が農地を利用することが想定されます。

このような中で、農地の「効率的な利用」に加え、「適正利用」の観点が極めて重要となるため、農業委員、農地利用最適化推進委員においては、本市の農地を残し、守っていくために「担い手への農地利用の集積・集約化」「遊休農地の発生防止・解消」「新規参入の促進」の3つの柱とした農地利用の最適化に向け、農地を守る活動を行うとともに、次世代に農業を継承するため、地域とのつながりを持ちつつ、若手農業者等と話し合いを行うなど、これまで以上に「人」と「農地」を将来にわたって維持し、発展するような取組を進めていかななくてはなりません。

今後におきましても、更なるご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げますとともに、令和6年が農業者の皆様にとりまして希望に満ちた年になりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

農業委員・農地利用最適化推進委員一同

農業委員

(議席順)

石山 幸男 (馬込町)
齋藤 教子 (坪井町)
金子しのぶ (前貝塚町)
豊田 豊 (二和東)
長嶋 雄一 (葉田台)
小川 晃 (東船橋)
平野 恵昭 (西船)
神山 茂樹 (豊富町)
高橋 光一 (旭町)
藤家 雅子 (東京都杉並区)
藤平 尚志 (大神保町)
穴倉由紀雄 (前原東)
藤城 孝義 (高根町)
岡庭 一美 (三咲)

農地利用最適化推進委員
(地区順)

武藤 英夫 (小室町)
木村 幸男 (神保町)
中村 恵一 (大神保町)
岩佐 常信 (八千代市)
伊藤 貞 (車方町)
齋藤 英幸 (坪井町)
伊豆丸智也 (大穴南)
伊藤 賢司 (二和東)
齊藤 義夫 (金杉)
伊藤 栄一 (前貝塚町)
小川 和也 (印内)
海老原寿生 (中野木)
白井 廣司 (神保町)

第56回船橋市農水産祭「都市農業PR」

船橋産農産物即売会は大盛況！

昨年11月11日、東武鉄道船橋駅コンコースにて、農水産祭実行委員会主催による第56回船橋市農水産祭「都市農業PR」が4年ぶりに開催されました。

11月にもかかわらず、当日は20℃を超える暖かい陽気の中、農業委員・農地利用最適化推進委員、市内農業生産者が出品した約4,000点の地元野菜や花き等が販売されました。

岡庭農業委員会会長、松戸市長のあいさつの後、東武鉄道船橋駅長による「出発進行！」の笛の合図により、10時30分に即売会がスタート！

船橋ブランドの小松菜、人参、枝豆、梨のほか、トマト、ほうれん草、大根、かぶ、ねぎ、キャベツ、さつまいも等、さらには花き、チーズなどが5ヶ所に分かれて陳列されました。

夏の猛暑の影響により野菜の価格が高騰したため、即売会では、小売り価格よりも安価に設定された農産物が飛びように売れていきました。

船橋市観光協会では、ふなばしカレーやグッズなどの販売、東武鉄道では子供用の制服を着ての記念撮影、船橋警察署では防犯対策等に関するブースを設置し、市民に呼びかけをおこなっていました。

農産物即売会は、大盛況のまま13時には完売！

会場を訪れていた市民からは「次はいつやるの?」、「どこに行けば買えますか?」などと尋ねられたり、「おいしい食べ方は?」などの質問もありました。



美味しい野菜の見分け方や調理法など、多くの会話を交わしていました。



岡庭農業委員会会長が都市部での農地の重要性や船橋産農産物をPR

どんどん押し寄せる人波に、売る側も大変でしたが、生産者自らが地元農産物のおいしさや魅力をアピールし、市民と直接会話をしながら販売できるととても有意義なイベントでした。

会場を提供して下さった東武鉄道・東武百貨店の皆様、早朝よりご尽力いただいた関係者や、生産者の皆様、そして、船橋の地元農産物をたくさん購入していただきました全ての皆様に感謝申し上げます。

第56回船橋市農水産祭「都市農業PR」アンケート集計結果

問1	問2	問3	問4	問5
あなたが買物をするお店(農産物直売所を除くスーパー等)には、船橋産の農産物は置いてありますか?	あなたは、船橋市内の農産物直売所(スーパーの産直コーナー、無人販売所も含む)をどのくらいの頻度で利用していますか?	本日の即売会で、「船橋産の農産物」を購入してみ、どんなことを感じましたか?(複数回答可)	あなたは、地産地消(市内での地元農産物の消費)についてどうお考えですか?(複数回答可)	船橋の農業をPRするには、どういった取り組みが効果的だと思いますか?(複数回答可)
1. 置いてある.....83名 2. 置いてない.....8名 3. わからない.....9名	1. よく利用する(週に2回以上).....32名 2. 時々利用する(週に1回).....29名 3. たまに利用する(月に1~2回).....23名 4. ほとんど利用しない.....8名 5. 近くに農産物直売所がない.....8名	1. 採れたてで新鮮な野菜だということがわかった.....86名 2. 普段では見慣れない野菜が売られていた.....10名 3. 生産者と直接話ができて良かった.....20名 4. 船橋は市街地が多いので、こんな農産物が作られていると思わなかった.....21名	1. 地域の活性化につながると思う.....60名 2. 船橋産ならば、生産者が身近に感じられ、鮮度が良く、安全・安心だと思う.....41名 3. 旬の農産物や地域の食文化に対する理解が深まると思う.....20名 4. 生産者との交流が図れると思う.....10名 5. 食料の自給率向上につながると思う.....24名 6. 船橋産の農産物が食べられる飲食店をもっと増やしてほしい.....19名	1. 農産物の試食・販売.....45名 2. 農作業の体験.....28名 3. 農産物を使った料理教室.....21名 4. 農家と地域住民の懇談会.....7名 5. 船橋産の農産物を販売するお店を増やす.....31名 6. その他.....1名
<p>〈回答数 100名〉</p>				

農業委員・農地利用最適化推進委員・農業モニター合同視察に参加して ～練馬区「白石農園」・「全国都市農業フェスティバル」視察報告～

昨年11月19日、農業委員、農地利用最適化推進委員、農業モニターの合同視察で東京都練馬区を訪れました。

練馬区は東京23区の中で最も多くの農地が残り、農地面積約180haのうち9割を越える約163haが生産緑地です。

最初に大泉町にある白石農園を見学しました。

同農園は江戸時代の初期から約300年続いている農家で、園主の白石好孝氏が、平成9年4月から「大泉風のがっこう」（野菜づくりのカルチャースクール）という農業体験農園を始めて、現在に至っています。

農園の概要は、60aの農地を使い、一区画30㎡で125組の利用者を受け入れています。利用料は年間55,000円（練馬区民は区の助成があり43,000円）です。

運営方法としては、講習会を中心とした農業指導を白石さんが行い、利用者は園が用意した肥料、農薬、農機具等を使用して、年間で約30種類の野菜の生産体験が出来ます。

利用者の募集は主に練馬区報、インターネット、口コミ等で行いますが、希望者がとても多いそうです。

経営のメリットとしては、収入の安定、労力の軽減、農業のやりがいを感じ、地域住民の農業への理解の醸成などを挙げていました。

又、利用者のメリットとして、経験のない人でも農家並の品質の高い野菜を収穫でき、月額5,000円程度で家族と共に趣味としての農業を楽しむことができることなどを挙げていました。

さらに、白石農園では、食農教育への取り組みとして、小学3年生の練馬大根の種まきと収穫体験、社会科見学の受け入れもしているそうです。

白石農園の労働力は、家族6名を中心に、ボランティア登録者は約100名いるそうです。

長男の秀徳さんはハウス栽培でアスパラガスを作っていますが、農業と福祉の連携として、収穫したアスパラの選別、梱包、発送の作業を福祉作業所に委託しているそうです。

また、隣接した土地には農園レストランなどを建設して収入の多角化も計っているそうです。

白石農園のような農業体験農園は、練馬区内で他に18件あり、練馬方式と呼ばれ、東京都内で約100件、全国で約150件が開設されています。

練馬区の農業は、農家・J A・行政の協働によって発展しており、令和元年には「世界都市農業サミット」も開催されています。





視察当日は都立光が丘公園において「全国都市農業フェスティバル」が開催されており、全国24の自治体が、大勢の来場者でにぎわうイベント会場において、たくさんの農産物や特産物の販売を行っておりました。

船橋市の農地は、市街化区域と市街化調整区域、更に農業振興地域など、多様に分かれており、今回、視察で訪れた練馬区とはその形態において若干の違いはありますが、今の船橋の農業が抱えている諸問題、たとえば農家の高齢化と後継者不足、荒廃した農地をいかにして増やさないで改善していくか、などを解決するきっかけになるのではないかと思います。

農業者年金で安心・豊かな老後を

農業者年金は、次の要件を満たす方ならどなたでも加入できます。

**年間60日以上
農業に従事**

**国民年金第1号
被保険者**
国民年金保険料納付免除者を除く

65歳未満
60歳以上は、国民年金の
任意加入被保険者

- 老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。
- あなたの老後生活への備えは十分ですか？

※1 農業者年金に加入される方は、国民年金の付加年金（付加年金保険料月額400円）への加入が必要です。 ※2 農業者年金と国民年金基金（旧みどり年金を含む）及び個人型確定拠出年金（iDeCo）とは重複加入できませんのでご注意ください。

農業者年金 ⑥つのポイント

- ポイント1** 農業者なら広く加入できる
- ポイント2** 積立方式・確定拠出型で少子高齢時代に強い
- ポイント3** 保険料は、月額2万円（35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円）から6万7千円の間で自由に決められる
- ポイント4** 終身年金。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金がある
- ポイント5** 税制面で優遇措置がある
- ポイント6** 一定の要件を満たす農業者には保険料の国庫補助がある

農業者年金 ③つのメリット

- メリット1** 女性に優しい
 - 奥様も単独で入れます。
 - 女性農業者の長い老後をしっかりサポートします！
 - 女性農業者の老後の安心は自分で確保
 - 家族経営協定で保険料の国庫補助も
- メリット2** 若年層には手厚い政策支援（保険料補助）
 - 国民年金第1号被保険者等の農業者年金への加入要件に加え、
 - 39歳までに加入 ● 農業所得が900万円以下
 - 認定農業者で青色申告等 を満たせば受けられます。
- メリット3** 税制面で大きな優遇
 - 支払った保険料は全額が社会保険料控除の対象となります。

詳しくは…

農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会がJAまたは農業者年金基金にお問い合わせください。

独立行政法人 農業者年金基金 <https://www.nounen.go.jp>

専門相談員

企画調整室

TEL: 03-3502-3199 TEL: 03-3502-3942





夫妻で役割分担し、完熟・多品種栽培で三須ブランドのトマトを販売しています。



新たな都市近郊農業を目指す 完熟トマトを地産地消 三須 一生さん (西船)

JR西船橋駅・京成西船駅から程近い印内に自己資金調達で施設ハウスを建設し、養液栽培でトマトを生産している三須一生さん(46才)。三須家は当地で古くから続く農家。一生さんで20代目にあたります。曾祖父の代にトマト生産の経験はありますが、祖父・父は小松菜を中心とした露地栽培農家。一生さんは飲食業の店長など経験して31才の時に家業を継ぎ、現在のトマト生産に従事しました。飲食業を通して学んだ食材の大切さ、そしてローテーションによるアルバイト雇用の仕方や様々な販路開拓などの知見を生かし、伝統農家と新たな近郊農業のあり方にチャレンジしています。奥様の美智子さんは一生さんが飲食業に従事している時に同じ職場で知り合ったこともあり、今は移動販売などの新規開拓の先頭に立ち二人三脚で取組んでいます。

トマトの生産に当たっては九州などの主力産地との差別化を図るため、まずは取れたての完熟トマトに着目し、取り組みました。

このため栃木県の農業資材メーカーに住み込みで研修し、修行を重ね、施設で完熟トマトを栽培し、これをより消費者に近い形で販売することを決めてスタートしました。

施設による養液栽培は温度、採光、更には病虫害等の予防など様々な配慮が必要であり、工夫に工夫を重ねて今日に至っております。

現地を訪れた時には、まず靴を履き替え、靴底を消毒し、衣服に付着した虫等を振り払い、2重の扉を経てハウスに入りました。ハウスの中は床一面が白基調ですが、これは光を適切に取り入れ、その光の反射を考慮してトマト栽培に有効に働くよう工夫した結果だということでした。環境面では農薬を極力使わずに虫害をさけるため、蜂を用いた天敵効果を模索しているとのこと。

品質面では完熟トマトのおいしさを味わってもらおうと収穫の時期・販売を選んで消費者に届けることに力を注いでいます。主力産地のトマトとの味による差別化が一生さんの生産の原点になっているそうです。

販売面ではハウスのすぐ近くに直売所を設置して販売するほか、契約スーパー、イタリアンなどのレストランへの販売、都内の食品会社販売、軽トラックによる移動販売、インターネット販売、近隣農家の仲間たちと協力し合い委託販売を行うなど、多岐に渡っています。また学校給食などの食育にも力を入れたいと抱負を語っていました。

品質を確保するための人員確保にも努めており、常用雇用1人、アルバイト17人を採用しております。「従業員の給料の確保、ハウス建設に伴う返済、そして3人の子どもを養うために必死。まさに背水の陣ですよ」と語りながらも明るい表情が印象的でした。



水分やハウス内温度などをコンピューターで細かくコントロール



三須トマト園のトマトたちは収穫したてを市場を通さずに出荷しています。

トマト施設約2,300m²に加えて約1,000m²のイチゴ施設も完成しており、今年にはイチゴ狩りも予定。新規事業として期待されています。

施設管理については、さまざまな工夫を重ねて自動管理に注力していますが、自然が相手ですからイレギュラーは付きもの。このため「自動化は進めているが、やはり最後はヒトの手が必要。これが重要なことです」と語っています。

生産品目は ミニトマト、中玉トマト、大玉トマトなどで色も赤、黄、緑とさまざま。細かに包装してそれぞれにネーミングしています。例えば「トマトのめぐみちゃん」「ミニトマもちゃん」色とりどりのミックスは「カラフルトマト」など。これにより三須ブランドの確立を目指し、他の生産トマトとの差別化を図りたいとのことでした。

夫婦ふたりが力を合わせて新たな境地に取り組んでいる姿は船橋農業の一方向として注目されています。

魅力ある 船橋農業に向けて

3人の 女性農業委員に聞く

〈後編〉

前号(106号)に引き続き、昨年7月より就任した3人の女性農業委員による座談会の後編を掲載いたします。

聞き手 石山 幸男委員

——船橋市という大都市で農業を行うことについて、どのように感じておられますか。

齋藤 現在、私のところでは耕作農地の一部で、近隣住人に向けた市民農園や、学童農園、児童を対象にした芋掘りなどの実施をしています。楽しみながら取れたての美味しい野菜を直に入手できるだけでなく、おいしい食べ方を教えるなど農家と住民の交流の場にもなっています。若い親御さんとお子さんが家庭菜園で自ら植えて旬の時期に収穫する。細かな技術は私たち農家が指導する。こうした仕組みをさらに追求していきたいです。学童農園も、徐々に受け入れる農家が増えていって欲しいですね。

金子 船橋市はまさに都市近郊型の農業であり、新鮮な野菜や果実などを直売できるのが大きな魅力です。自分で作ったものを顔の見える形で販売し、消費者の方々に喜んでもらえることは農家にとって大きな喜びです。輸送コ

ストがかからず、環境に貢献できるといっても大きな強みでしょう。

一方で宅地開発が急ピッチで進み、戸建て住宅やマンションに住む近隣の方が農作業時に発生する音や粉塵等で嫌な顔をされる場面もあります。この問題は避けては通れません。

例えば私のところではキャベツなどを無料で配っていますが、早く受け取ってもらえていたのですが、今は「もうう筋合いがない」と断られるケースもあります。話す糸口が見つからないという現状の中、周辺住民とどのように調和を図るかが大きな課題だと思っております。

齋藤 古くから住んでいる方々とは比較的良好的な関係を築けていますが、新しく引越してきた人とは正直難しい面があります。極端な例ですが自宅の窓に目張りをする人や、引越越してしまったケースもありました。

藤家 船橋市は商業と農業が共存できる魅力のある街だと思っております。どの産業においても、消費地に近いと



いのは何よりの魅力でしょう。またブランド化している農産物もあり、大きな可能性があります。

一方、水田等の耕作放棄地や、周辺住民との折り合いをつける必要があるなど、課題も残されていると思います。現下の円安動向を見据えながら、農作物の輸出など、新しい試みについても視野に入れたらどうかと考えております。

——皆さんの考える課題、今後、取り組みたいことについて教えてください。

齋藤 野菜や米の価格が安すぎることで、また生産コストの上昇などにより、農業者は苦しい場面に直面しています。後継者の確保、農業用ハウスの建設、ここまではクリアしても収入が見合わず利益はわずか。せつかくの後継者が使えるお金はおのずと制限され、サラリーマンとなった同級生との付き合いに支障が生じるケースも見られます。収入を増やすために、例えば人気スポットのアンデルセン公園などを絡めて、船橋の農業を積極的にアピールし、農家の実利に繋がるような取り組みができればいいなと思っています。

藤家 農業収入で生活できるようにすることは大事なことです。規模拡大は大きな要素です。農業委員会の役割の一つであり、頑張っていきたい。新規就農者の参画に際しても、土地の選定、技術・経営支援、補助金制度など様々な要素があり、これらについても勉強していきたいと思っております。消費者の目がどこに向いているかは、女性の方が分かるのではないかと思います。



今の女性は仕事を持っている方が多く、スーパーマーケットに行き、一週間分の食材をまとめて買って過ごす方が多い。こうした需要の変化にどう対応したらよいか検討する必要があります。市民農園の開設、緑資源の充実、自然とのふれあいなどはこれからの船橋の農業には大変重要となってくるでしょう。

金子 私も、農業収入で生活ができるような環境にしたいです。家族全員で働いてサラリーマン一人分の収入では寂しいですね。また耕作放棄地をなくし、若い人にマッチングするといった取り組みを進めていきたいです。市街化区域内の生産緑地地区のチェックも課題の一つでしょう。

石山 いろいろ課題もありますが、船橋市にはまだまだ伸びしろがたくさんありますね。女性委員をはじめ、船橋市農業委員・農地最適化推進委員みんなで力を合わせて、船橋の農業を盛り上げていきましょう！

profile

齋藤 教子委員

・平成8年7月20日〜農業委員
・「千葉県女性農業委員の会」初代会長に就任した。
幅広く農業分野で活躍している。

金子 しのぶ委員

・令和5年7月20日〜新農業委員
・ちは東葛農業協同組合理事・女性部長
・認定農業者

藤家 雅子委員

・令和5年7月20日〜中立委員として新農業委員
・JICA(国際協力機構)などで農業に携わる
・現在、千葉大学大学院にて園芸学研究科の非常勤講師を勤める

令和6年4月1日から **相続登記が義務化** されます！

- 1 相続登記義務化は令和6年4月1日から始まります。
- 2 相続人は不動産（土地・建物）を相続で取得したことを知った日から3年以内に、正当な理由がないのに相続登記をしない場合、10万円以下の過料が課せられる可能性があります。
- 3 遺産分割の話し合いで不動産を取得した場合も、別途、遺産分割から3年以内に登記をする必要があります。
- 4 令和6年4月1日より前に相続した不動産も、相続登記がされていないものは、義務化の対象になりますので（3年間の猶予期間があります）注意が必要です。

東京法務局
ホームページ



詳しくは東京法務局又は
法務省ホームページをご覧ください



法務省
ホームページ

問い合わせ先／千葉地方法務局船橋支局 TEL 047 (431) 3681

船橋産 簡単レシピ



材料(18cm×9cm×6cm パウンドケーキ型1個分)

- にんじん（すりおろす）……………中1本（150g）
- オリーブ油……………大さじ2
- 薄力粉……………110g
- B ベーキングパウダー……………小さじ1
- レーズン……………20g
- C クルミ（煎って粗く刻んでおく）……………20g
- たまご……………2個
- 砂糖……………60g
- 粉糖……………適宜（お好みで）

ポイント にんじんは、水っぽくなるのを防ぐため、フードプロセッサーではなく、おろし器ですりおろしてください。

作り方

- ① Aをボールに入れて混ぜ合わせ、少しづつオリーブ油を入れながら都度混ぜる。
- ② にんじんを加えて混ぜ合わせたら、Bをふるいにかけながら入れ、さらに混ぜ合わせる。
- ③ 最後にCを入れ、混ぜ合わせる。
- ④ パウンドケーキ型にオープン用シートを敷き、材料を流し入れる。
- ⑤ 予め180度に加熱しておいたオーブンで35分ほど焼き、型から外してケーキクーラーなどに乗せて冷まし、お好みで粉糖をふりかける。

クルミとレーズンのキャロットパウンドケーキ

JAいちかわ船橋地区女性部
榎田 規江さん(飯山満町) 考案

第56回 船橋市農水産祭農産品評会
船橋市長賞作品

編集後記

就農した当時、「あと10年経てば、日本の農業は良くなる」と言われ、夢と希望を持っていた青年時代。あれから40数年が経ちましたが、私の周りの営農環境は変わらず、むしろ厳しくなっているように思われます。

天候不順や農業資材の高騰など、農業を取り巻く環境の厳しさもありますが、農業が地域の方々に喜んでもらうだけでなく、ビジネスとしての視点を持ち、自信と誇りにつながるような視点を持つことが増えていくことを願っています。

そのためにも、地域の特色に応じたさまざまな就農支援措置を講ずることは必要であり、必要な条件を整えることで入口のハードルを下げ、農業が憧れの職業となっていくことを期待せずにはられません。